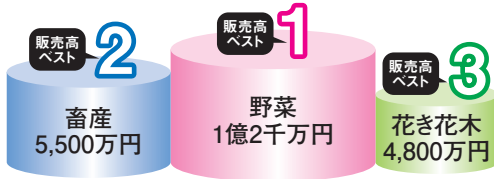


4 中部第4 営農経済センター

センター販売高：2億7千万円



区域 甲浦支所(甲浦・小串地区)、東兎支所(胸上・銚立地区)

“ 気候も人も温暖な兎島半島から 微笑みのある農業を ”

(1) 現状と課題

当エリアは、岡山市南部及び玉野市北部の兎島半島に位置し、瀬戸内海に面していることから比較的気候は温暖であります。栽培品目として、重量野菜では、キャベツ、たまねぎなどが、軽量野菜では、レタス、小松菜、サラダ水菜、水菜、しら菜、人参菜、青ねぎ、えんどうなどがあげられます。花きはスイートピー、菊栽培がなされており、園芸品目が主体の地域であります。重量品目や豆類は比較的小規模な経営であり、その他の品目は大規模な経営である場合が多いのが現状です。

生産者部会は品目ごとに組織化されており、販売面ではほぼ100%市場出荷であります。

しかし、近年の青果物流通の変化（市場外流通の増加による市場機能低下）により、以前のような高単価での販売が期待できず生産意欲が湧く販売となっていないのが現状です。このことに加え、生産者の高齢化も進み、市場出荷するだけの経営規模を維持することが難しく離農するケースも見受けられます。



(2) 目標と方策

ア. 基幹品目の生産部会に微笑んでもらえる活動を!

- 生産部会員ひとり一人に対し声をかけ、積極的に関わることで親密感を深め、互いに微笑みのある関係づくりを行ないます。
- 本所と連携して、中部エリア内に展開されているレタス部会各支部との連帯感を強め、中部エリア外のレタス生産部会との人的交流、意見交換・情報交換を行い、生産意欲のマンネリ化を解消します。
- 市場での販売状況や今後の販売予想、競合産地の出荷状況などの情報を積極的に入手し、生産者へ伝えます。

イ.少しでも長く微笑んで営農と畜産が出来る仕組みづくり！

- 生産者の高齢化により、市場集荷するだけの出荷量が維持出来ず、やむを得ず生産を断念する生産者は多い認識でありましたが、営農振興計画座談会の場において、営農意欲は衰えていないという意見は数多くありました。そこで、単品目大口出荷である市場出荷から、多品目少量出荷である農産物直売所へのお荷へ視点を換え、たとえ高齢者でも楽しんで営農が行なえるように、農産物直売所出荷組織を作り会員を増やします。
- 農産物直売所への輸送体制の仕組みをつくり、生産者がつくことに専念できる体制を構築します。
- 補助事業、価格維持制度等を活用し、経営の安定と発展に努めます。

ウ.何か“ワクワク”するおもしろい営農を！

- 本所や市場から「こんな品目が売れるよ～」とか「この時期にこの品目が足りなくて困っているんよ…」といった情報を仕入れ、行ける！と確信できる品目を積極的に推進し、生産者に楽しみを与えられる農産物の栽培を目指します。
- 青果物流通の変化を研究し、加工品用の需要が高まってきていることを考慮し、思い切った選別作業や出荷作業の簡略化をはかり、生産者所得の向上を図ります。
- 当地区の水稲は土壌条件が良く水もきれいな圃場が多く、昔から食味にも定評があります。また、「番田芋」「田井地柿」など、今でこそ生産量は減った幻の農産物があります。これら希少価値のある農産物の復活を図るとともに販売方法を研究して、付加価値を付けた販売を行ないます。



中部第4 営農経済センターの発展方向

項 目		現状	H23	H25
えんどう(豆類)	栽培面積(ha)	5.0	5.6	6.0
	生産者数(人)	80	90	100
	出荷数量(kg)	30,000	34,000	38,000
	販売高(千円)	17,866	20,000	22,000
青ねぎ	栽培面積(ha)	0.8	1.0	1.3
	生産者数(人)	8	10	12
	出荷数量(kg)	28,000	35,000	42,000
	販売高(千円)	8,246	10,000	13,000
たまねぎ	栽培面積(ha)	5	5	5
	生産者数(人)	44	44	44
	出荷数量(kg)	46,000	46,000	46,000
	販売高(千円)	3,685	4,000	4,000

項	目	現状	H23	H25
キャベツ	栽培面積(ha)	5	5	5
	生産者数(人)	22	22	22
	出荷数量(kg)	250,000	250,000	250,000
	販売高(千円)	20,207	21,000	21,000
レタス	栽培面積(ha)	5.0	5.2	5.3
	生産者数(人)	11	12	13
	出荷数量(kg)	152,000	153,000	155,000
	販売高(千円)	27,350	30,000	33,000
軟弱野菜	栽培面積(ha)	4	4.2	4.4
	生産者数(人)	9	12	15
	出荷数量(kg)	110,000	120,000	130,000
	販売高(千円)	36,608	38,000	40,000
ユーカリ	栽培面積(ha)	2.2	2.2	2.2
	生産者数(人)	5	5	5
	出荷数量(本)	12,000	12,000	12,000
	販売高(千円)	1,356	1,400	1,400
スイートピー	栽培面積(ha)	0.6	0.8	1.0
	生産者数(人)	7	10	13
	出荷数量(本)	1,200,000	1,300,000	1,500,000
	販売高(千円)	35,000	40,000	50,000
きく	栽培面積(ha)	0.6	0.6	0.6
	生産者数(人)	3	3	3
	出荷数量(本)	259,000	260,000	270,000
	販売高(千円)	11,370	12,000	13,000
米集荷数量(俵)		4,411.5	4,500	4,500

5年後にはこんな農業が展開されます。

- 加工需要など業務需要の多い品目の一つであるレタスや裏作として栽培されている青ねぎの作付面積を拡大し、需要量に応えられるだけの出荷体制が図られています。
- 高齢化が進んでいる地区でありながら、高齢の人でも楽しみながら軟弱野菜を主にした少量多品目での生産を行い農産物直売所などで販売することで少しでも長く、営農活動が行えるようになっていきます。
- 今まで野菜を栽培していた生産者が新規にスイートピーなど花きの栽培を行ったり、花き生産者が野菜栽培を行ったりして、生産者同士の交流が活発になっています。
- 農産物直売所などJAが主体になって販売する出荷の割合が増えています。それに伴い、JA自らが販売戦略を提案できるようになり、JAは責任のある販売、生産者にとっては生きた営農情報を聞くことで一層の生産意欲向上につながっています。